

4.5 試験結果のまとめ

試験結果のまとめと都市基盤整備公団（「集合住宅開口面の要求性能に関する検討委員会」～完全スリットの要求性能とその確認方法について～）における品質判定基準を表-10に示す。

表-10 試験結果のまとめと品質判定基準

試験項目	試験結果			品質判定基準
圧縮性試験	変形可能幅	水平スリット	20.5mm	20mm以上であること
		鉛直スリット	23.3mm	
	変形復帰性	水平スリット	試験前の厚さ：平均30.8mm 復帰厚さ：平均29.6mm	異常なく復帰すること
		鉛直スリット	試験前の厚さ：平均26.8mm 復帰厚さ：平均26.8mm	
セメントペースト浸透性試験	鉛直スリット及び水平スリットともにセメントペーストを吸収しなかった			スリット材はセメントペーストを吸収しないこと
耐火性能試験	試験中非加熱側へ10秒を超えて継続する火炎の噴出及び非加熱面で10秒を超えて継続する発炎は認められなかった また、試験中火炎が通る亀裂等の損傷は生じなかった			非加熱側へ10秒を超えて継続する火炎の噴出がないこと 非加熱面で10秒を超えて継続する発炎がないこと 火炎が通る亀裂等の損傷を生じないこと
	裏面最高温度	T ₀ （初期温度）は5℃であった スリット部及び一般部の裏面温度において、裏面最高温度（185℃）を超えなかった		加熱中の裏面最高温度 T _m が次式に適合すること $T_m \leq 180 + T_0$
	裏面平均温度	T ₀ （初期温度）は5℃であった スリット部及び一般部の裏面温度において、裏面平均温度（145℃）を超えなかった		加熱中の裏面平均温度 T _a が次式に適合すること $T_a \leq 140 + T_0$
層間変形・水密性試験	層間変形	層間変形角1/800rad, 1/200rad及び1/100radの各層間変形試験においてスリット材の破断、ずれ等の損傷は認められなかった		層間変形角1/800rad, 1/200radの各層間変形試験において、スリット材に破断・ずれ等の損傷がないこと
	水密性	初期性能、層間変形角1/800rad履歴後及び1/200rad履歴後の各水密性試験において室内側への漏水は認められなかった		初期性能の水密性試験において、スリット部から室内側へ漏水がないこと